

図録

能美市の

人馬

平成二十九年七月



発刊のあいさつ

能美市教育委員会
教育長 谷口 徹

絵馬の奉納は家内安全や受験、就職、縁結び、健康などさまざまな願いを板絵に込める、現代の私たちにもなじみが深い文化です。その起源は古代にまでさかのぼり、雨請い祈願や神への感謝などのために生馬から木馬・土馬、そして板絵を納めるようになったのが始まりと言われています。やがて中近世には有名絵師による作や大型品も奉納されるようになり、それらは文化財、美術品として今日的な再評価も高まっています。

しかし、能美市内の絵馬についてはこれまで部分的な調査しか行われておらず全容が不明でした。このたび能美郷土史の会と能美市立博物館との共同調査によって700点を超える絵馬を確認することができました。調査の主体となった能美郷土史の会は、会員のネットワークを駆使して3ヶ年にわたる地道な活動を行い、市内絵馬の実態を明らかにする貴重な成果をおさめていただきました。江戸時代にさかのぼる古い例や色鮮やかな絵図など文化財的価値が高いものも含まれており、それらを収めた本書は重要な基礎資料として今後末永く活用されることは間違いありません。

いっぽうで、市内において平成以降に大型絵馬を奉納する風習はほとんど見られなくなっており、さらに保管が困難となり処分されてしまった絵馬も見受けられるようです。本書によって、市内絵馬の重要性が改めて見直され、地域の人々の手によって大切にされることを願ってやみません。

末尾となりましたが、本書の発刊に際し、ご指導を頂きました石川県立歴史博物館戸潤幹夫様、多大なるご尽力を頂きました能美郷土史の会、調査や写真掲載にご協力とご快諾をいただきました地元町会、各神社、寺院の関係各位に厚く御礼を申し上げ発刊のあいさつといたします。

平成29年7月吉日



大成八幡神社の神馬像



凡 例

- 1 この図録の画像は、平成 26 ～ 28 年に調査した絵馬を中心に撮影したものであるが、うち根上地区の 13 社は平成 15 年に撮影したものである。それらについては (H15) と付記した。現存しないものについては★印を付した。
- 2 各神社の絵馬を種類別に記述した。
- 3 図録の各絵馬について、主に次の項目順に紹介する。
 - ①画題 ②寺社名 ③年代 (明記あるもの) ④寸法 (計測したもの [cm])
 - ⑤作者名 (明記あるもの) ⑥解説・注記 (必要なもの)※神社名は石川県神社庁のホームページに準拠した。所在地が示されている神社については町名を省略した。
- 4 資料の撮影及び調査分析は、能美郷土史の会の会員及び能美市立博物館が行なった。
- 5 本篇の執筆・編集は石川県立歴史博物館の戸潤幹夫氏の指導を受け、能美郷土史の会と能美市立博物館が行なった。
6. 本書の編集および本文執筆に際しては、主に以下の文献を引用、参考にした。

◆加賀市絵馬調査報告書	加賀市教育委員会	1985 年 3 月
◆松任の絵馬	松任市立博物館	1990 年 7 月
◆絵馬と信仰展	小松市立博物館	1991 年 10 月
◆カラーボックス「絵馬」	保育社	1980 年 2 月
◆絵馬をあるきよむ	岩田書院	2012 年 1 月
◆大絵馬ものがたり	農山漁村文化協会	2010 年 1 月
◆夢楽洞万司の世界	福井県立博物館	1996 年 4 月
◆巖如春	石川県立歴史博物館	2003 年
◆歌舞伎名作事典	演劇出版社	1996 年 8 月
◆歌舞伎名作ガイド 50 選	成美堂出版	2003 年 12 月
◆能・狂言図典	小学館	1999 年 7 月
◆繪馬	わんや書店	2009 年 1 月
◆真宗の文芸世界と絵馬文化	石川県立博物館紀要 26 号	2017 年
◆繪本 義経ものがたり	講談社	2006 年 8 月
◆繪本 仮名手本忠臣蔵	朝日新聞社	2010 年 9 月



目 次

発刊のあいさつ

凡 例

はじめに……………	1
1. 絵馬の歴史……………	1
2. 能美市の絵馬とその特徴……………	2
・ 絵馬の数と種類……………	2
(表1) 画題別絵馬分布表	
・ 制作年代にみる絵馬……………	3
(表2) 年代別による絵馬順位表	
(1) 馬図 (牽馬、繫馬、飾馬、裸馬、遊馬)……………	5
(2) 動物図 (鶏、鳩、鹿、猿、龍、虎)……………	15
(3) 武者絵 (古代、合戦図、伝記、物語絵を含む)……………	16
(表3) 武者絵・物語絵の画題別分布表	
(4) 戦争 (西南役、日清、日露)……………	67
(5) 銭額・船図他 (文銭鳥居額、文銭社額、北前船)……………	72
(6) 風俗図・生活 (生活、生産、風景、花鳥図)……………	74
(7) 芸道 (能、俳句、短歌、刺繍、押絵)……………	77
・ 巻末付表 (表4) 能美市内神社の例祭日一覧……………	79
・ 掲載図録一覧……………	81

あとがき

はじめに

今回、能美郷土史の会で絵馬調査を実施したきっかけは、平成26年3月発行の会誌「のうみ」9号で、本会の任田猛さんが、根上地区の神社絵馬を調査した結果をまとめた「神社絵馬が語るもの」を寄稿され、市全域の調査の必要を訴えました。これを受けた形で本会の事業として取り上げ、同年9月の寺井・奥野八幡神社の調査を手始めに調査を開始しました。その後27、28年と調査をすすめてきました。この調査の中で神社の改築・新築に際して古い絵馬が順次処分されていることを知り、今のうちに画像だけでも残すことの必要性を痛感しました。したがって調査では社殿に飾られた状態での撮影が中心で、法量実測や年代確認などを省いたものもあり、撮影技術も未熟で撮影環境も決して満足とは言えません。今回は調査対象とした奉納物740点余の中から、特に古い時代（主に昭和期まで）の板に描かれた絵馬を中心に、その画像を保存することを目的に170点余を図録としてまとめてみました。板絵馬以外の陶額、皿額、刺繍額、押絵額、書額、俳句・短歌の奉納額、能楽奉納額、社額、棟札、写真、奉納記名額などの奉納物については分類整理の対象としましたが、大方は図録からは除外しました。これらは各地域の時代の文化や慣習の実態などが伺える貴重なものですが、別途調査研究の対象としたいと思います。なお以前には根上町（昭和58年）と辰口町（昭和55年）で絵馬の展示を行っており、その際の資料も参考にしました。

1. 絵馬の歴史

絵馬の起源は古代から神に馬を奉納する慣わしがあり、馬の代わりに土馬や木馬を奉納するようになり板に馬を描く絵馬が現れたと言われています。絵馬の始まりは奈良時代からとしている資料も多くありますが、発掘調査で飛鳥時代（7世紀中頃）のものが難波宮跡から出土し、

最古の絵馬と言われています。

時の流れと共に生きた馬の献上が費用も掛かり、出来ない場合は土馬や木馬などに代えて献上し、平安時代の法令集には生馬を献上できない者には「板立御馬」を命ぜられたことも記されています。絵馬の形が登場したのは平安時代であり、家のような型は屋根の名残りだそうです。

安土桃山時代になると狩野派などの画家の描く大型の絵馬が人気となり、それらを展示する絵馬堂も建てられ、今日の美術館のような役割を果たし、奈良春日大社の絵馬堂には絵馬が多く奉納されています。現存の絵馬堂で最も古いのは京都・北野天満宮で、元禄14年（1701）4月の宮仕記録によると「このたび『掛所』を新造するので……」と記しており、長谷川等伯の「昌俊・弁慶相騎図」（重要文化財）は宝物殿で保管してあるようです。

神馬を献上できない者は木製馬形を、木製馬形をも献上できない者は馬の絵を描いて奉納し庶民に家内安全や商売繁盛といった祈願をする風習も広まり、明治時代になって厄除け祈願や干支など様々なバリエーションが生まれました。

能舞台でも「繪馬」という演目が上演され、絵馬の成り立ちや役割を教えてください。天の岩戸で天照天神は天鈿女命と手力雄命に引かれて岩戸から姿を現すと、尉と姥が白黒の絵馬を持って現れ、あらたまの春を迎える喜びを謡ったあとに「お尋ね申しますが人間は道理の分からぬ無智なもの故、節分の絵馬掛けについて馬の毛色によって翌年の天気を占い、雨の多い年にはその準備をするためと言うので、今年はどういう絵馬を掛けるのか。その謂れをお教えいただけないでしょうか」と勅使が二人に尋ねました。

「雨を多く望むのなら黒色の絵馬を、その逆なら白色の絵馬を掛けるのです」とすると「では今夜あなたは、どちらの絵を掛けられるのです

か」と問われ、姥は「雨露の恵みの黒馬」を、尉は「日を照らし耕作の成長を祈って白馬」と答えるが「争っても仕方がない。二つの絵馬を掛けて万民の楽しむ世にしよう」と尉の意見に姥も同調し二人が絵馬社に絵馬を掛け、やがて二人は伊勢の神であることを仄めかすと夜半に消えていくのです。

江戸時代になると能、浄瑠璃、歌舞伎を題材として絵馬が数多く制作され、絵馬を専門に制作する越前「むらくどう夢楽洞」のような絵馬工房ができ、旅行や寺社参詣記念として絵馬を持ち帰り氏神に奉納するという習慣も始まりました。市内にも越前の夢楽洞の絵馬が数点みられます。

明治時代になって日清、日露戦争の場面を描いた戦争絵馬が現われます。大正、昭和まで絵馬奉納の習慣は続いていますが、近年になると学問の神様として菅原道真を祀り至誠・厄除けの神様と崇敬される天満宮に受験生らが合格祈願の小絵馬を奉納する風習が盛んになり、馬以外の絵も描かれるようになりました。

2. 能美市の絵馬とその特徴

・絵馬の数と種類

今回の絵馬・扁額等奉納物の調査では、市内74社約740点の中には個人の誕生・還暦・厄除けの絵馬、神社新築・戦勝記念などの絵馬のほか、武者、源平合戦の絵馬、浄瑠璃や歌舞伎などを題材にした物語絵馬が数多くみられ、中でも親鸞聖人の生涯を脚色した浄瑠璃「はなわさん華和讃しんらげんじ新羅源氏図」の絵馬（P.19 図録 41）は、加南地方にだけみられる仏教関係の珍しい絵馬の例ということです。また新聞（平成26年9月）でもその修復が話題となった吉原・熊田神社の石山軍記の絵馬（P.48 図録 106、107）があり、このほか手取川洪水記念を描いた扁額や句額、歌額、能舞奉納額など地域に共有する思いや文化伝統が伺えるものが多くみられます。

（表1）画題別絵馬分布表

種 別		根上	寺井	辰口	計
馬	曳馬、繫馬、飾馬、裸馬、遊馬	38	76	161	275
動物	鶏、鳩、鹿、猿、龍、虎	10	13	24	47
歴史	神話、中国古代	2	4	6	12
武者	武者、武士、合戦図	44	27	27	98
物語	物語、説話	46	24	29	99
戦争	日清、日露、日中戦争、記念品	9	4	16	29
神仏	祭神、神像	11	6	6	23
吉祥	高砂、松、鶴亀、菊花など	5	9	8	22
銭額	文銭鳥居額、文銭社額	2	4	10	16
船	北前船	2	0	0	2
風俗	生産、生活、風景、花	11	9	18	38
芸道	能、俳句、短歌、刺繍、押絵	7	10	27	44
扁額	書額、社額	3	5	9	17
皇室	皇族写真、詔勅	1	0	6	7
他	記念写真、奉納名額、他	6	4	7	17
計		197	195	354	746
神社数		19	18	37	74



親鸞絵伝(華和讃新羅源氏図)

・制作年代にみる絵馬

市内の絵馬には年代を明記していない絵馬が多く、正確な年代が分かりませんが、江戸以前の年代を明記した絵馬は約 30 点ほどで、最

も古いものは天保年間（1830 年代）のもので、それ以前のものは不明です。

また画題別では馬図が多いのは当然ですが、古典を基にした武者・合戦物や物語（能、浄瑠

(表 2) 年代別による絵馬順位表

順位	神社名	主題	年号	西暦	図録No.
1	西任田・西大御神社	飾神馬図	天保年間(初年)	1830	13
2	大成・八幡神社	歌額「瀬を早み…」	天保 6 年	1835	170
3	大浜・西宮神社	仮名手本忠臣蔵	天保 13 年	1842	137
4	寺井・奥野八幡神社	寛永通宝鳥居形額	天保 13 年	1842	157
5	宮竹・日吉神社	仮名手本忠臣蔵 1(H3 小松展)	天保 13 年	1842	116
6	宮竹・日吉神社	仮名手本忠臣蔵 2(H3 小松展)	天保 13 年	1842	117
7	寺井・奥野八幡神社	大江山酒吞童子	弘化 3 年	1846	45
8	福岡八幡神社	源平盛衰記 (S58 根上展)	嘉永 3 年	1850	77
9	牛島・八幡神社	飾神馬図	嘉永 5 年	1852	14
10	寺井・奥野八幡神社	大絵馬・遊馬図	嘉永 7 年	1854	9
11	末信神社	源平合戦図	安政元年	1854	78
12	末幡神社	仮名手本忠臣蔵	安政元年	1854	119
13	末信神社	牛若丸絵巻	安政元年(推定)	1854	70
14	牛島・八幡神社	大江山酒吞童子	安政 2 年	1855	46
15	西任田・西大御神社	鶏つがい (S58 根上展)	安政 3 年	1857	31
16	吉原・熊田神社	石山軍記 1	安政 4 年	1857	106
17	吉原・熊田神社	石山軍記 2	安政 4 年	1857	107
18	吉原・熊田神社	大江山酒吞童子	安政 4 年	1857	47
19	末寺・白鬚神社	大江山酒吞童子	安政 4 年	1857	51
20	栗生八幡神社	牛若丸伝(義経一代記)	文久 2 年	1862	72
21	西任田・西大御神社	雄鶏図	文久 3 年	1863	32
22	下ノ江・八幡神社	神功皇后・武内宿祢	元治 2 年	1865	37
23	下ノ江・八幡神社	平将門奮戦図	慶応元年	1865	42
24	西任田・西大御神社	飾神馬図	慶応 4 年	1868	15
25	五間堂伽羅俱神社	飾神馬図 (S58 根上展)	江戸末期(推定)	1868	16
26	赤井・赤濱神社	忠臣蔵図	江戸末期(推定)	1868	136



石山軍記

璃、歌舞伎等）の絵馬が多いことに驚かされます。中でも仮名手本忠臣蔵だけでも 30 点近くを占めていて、身近な娯楽が乏しかった時代の反映と思われます。奉納された歴史絵馬や歌舞伎絵馬を前に村人たちに絵馬の中身を絵解きすることもあったと聞きます。

なお近年になると神社によっては氏神への絵馬奉納の習慣が途絶えたと思われる神社がふえているようです。今回の調査でも平成以降の絵馬のない神社がかなり見受けられました。そして神社の改築・新築に伴って古い絵馬から順に物置へ移されたり、処分されたりすることが多くなっているようです。絵馬を社殿や絵馬堂などで陳列保管している神社もありますが、今回の調査でも社殿以外の別棟や物置から出して撮影したこともありました。

また今回の絵馬調査の対象となった辰口温泉薬師寺（真言宗・集福寺）には、地元温泉の中心的な存在らしく数多くの絵馬が奉納されています。奉納物の中には木彫のレリーフ神馬額、主に辰口地区に多く見られる名工・中川答山とうざんの手になる神馬、龍、虎などの塑像額、また九谷焼の地元佐野町の狭野神社及び陶祖神社には著名九谷焼作家の皿額が多数奉納されていますが、今回の図録ではその多くは掲載を見送りました。これらについては別の機会に取り上げることとします。（文責・後）



寺井・奥野八幡神社での調査風景